

資料

関西福祉大学の建学の精神とSDGs

The founding spirit of KANSAI UNIVERSITY of SOCIAL WELFARE and Sustainable Development Goals

市橋真奈美^{*1}・鈴木みちる^{*1}・山口 幸一^{*1}
池永理恵子^{*1}・佐藤 功^{*2}

要約：自校の建学の精神について学ぶことは、人間としての成長に焦点を当てる教育の一つの在り方である。本稿は、令和2年度教育学部保健教育学科の「教育基礎演習」において実施した講義「建学の精神とSDGs」及び事後の学生のリフレクション（レポート課題）を資料としてまとめたものである。内容は、関西福祉大学の沿革、建学の精神の解説とSDGsとの関係について講義を行い、それを受講した学生のリフレクションの記述を整理したものからなる。学生のリフレクションの中には、本学の建学の精神を体現できるような人間に成長していく可能性の萌芽を感じさせる記述があり、自校教育の重要性を確認した。

Key Words：建学の精神，SDGs，自校教育

1 はじめに

明治19年（1886年）公布の「帝国大学令」¹⁾には、「帝国大学ハ国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授シ及其蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トス」とある。つまり、国家建設のための主要な人材を育成することが帝国大学設立の目的である。一方、私学（現在の主要私立大学の起源となった学校）は帝国大学とは異なる役割を果たしてきた。天野（2010）は、私学設立の目的のひとつとして、「教育機会の開放という側面」があることを指摘し²⁾、私学には、「使命感、とりわけ啓蒙への強い志向」³⁾が、共通して見られると述べている。これを踏まえて、木村（2017）は、「国家を牽引する人材育成というよりも、（私学は）人間としての成長に焦点を当てる教育に意義を見出したのではないか」と指摘している。⁴⁾

そこで、本稿では、自校の建学の精神について学ぶことは、人間としての成長に焦点を当てる教育の一つの在り方であると捉え、令和2年度教育学部保健教育学科の「教育基礎演習」において実施した講義「建学の精神とSDGs」及び事後の学生のリフレクションを資料として

まとめる。

2 講義「建学の精神とSDGs」の内容（副学長 佐藤 功）

(1) 関西福祉大学の沿革について

関西福祉大学の学校法人である関西金光学園の沿革をたどると、大正15年（1926年）2月、私立静徳高等女学校にさかのぼる。その後、昭和7年（1932年）6月に（財）浪花高等女学校と名称変更し、昭和23年（1948年）の学制改革を機に、進修高等女学校と大軌高等女学校（昭和21年創立）を吸収合併、最も校舎の大きかった浪花高等女学校に生徒を集めて「浪花女子中学校・浪花女子高等学校」として新たな道を歩み始めた。昭和26年（1951年）3月私立学校法制定により学校法人浪花金光学園と改称。平成6年（1994年）関西金光学園と改称後、平成9年（1997年）4月関西福祉大学開設の運びとなった。「人間は皆等しく神の氏子である」という金光教の教義に基づき、中学校2校、高等学校3校、そして関西福祉大学を兵庫県赤穂市に設立し、教育の営みの場を順次展開させてきた。大学を設立することで社会の役に立つ人材を輩出したいという関西金光学園の願いと“大学をわが町へ”という赤穂市民の熱い思いが重なり、関西初の福祉系4年制単科大学として本学は誕生した。開学以来、「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」の建学の精神とともに、未来の平和な社会を創造する人材の育成と地域社

2020年12月1日受付／2021年1月21日受理

*¹ ICHIHASHI Manami
SUZUKI Michiru
YAMAGUCHI Koichi
IKENAGA Rieko
関西福祉大学 教育学部

*² SATOH Isao
関西福祉大学

会の発展に貢献する開かれた教育の営みを目指すという理念のもと、教育活動や学術研究を進めてきた。現在、小規模ながら魅力のある大学として成長しつつある。

(2) 本学の建学の精神

『関西福祉大学創立20年史』⁵⁾の湯川理事長の祝辞によれば、

(前略) そもそも建学の精神とは何でしょう。1つの喩えで申してみれば、人間のDNAのようなもの、あるいは体を流れる血液のようなものだとと言えるでしょうか。確かに存在する、欠くことのできない重要なもの。けれども、日常的に強く意識されることの少ないもの、という類似点があるかもしれません。いわば、空気のような存在かとも思えます。

ところで、本学の建学の精神に掲げられた3つの項目は、言うなれば「人を思う心」だと言い換えてよいかもしれません。例えば宮沢賢治は、「世界全体が幸福にならないかぎりには、個人の幸福はありえない」という言葉を残しましたが、これは人間であるからこそ紡ぎ出せた「人間的な心」だと思えます。つまり、人を思う心とは人間的な心であり、これを外してしまうと人間とは言えないような、そういう心ではないかと考えさせられます。(中略) 多種多様な価値観を認め、尊重しつつ、しかしそのバラバラになりそうなものを束ねて、ふわりと覆ってくれる大きな傘のようなもの。建学の精神がそういうものとして本学の教育・研究活動に深く染み入ってくれることを期待し、願うものです。

と述べられている。

筆者は、建学の精神は国で言えば憲法のようなものであり、大学のあらゆる教育活動の準拠すべきものだと考えている。建学の精神の受けとめ方は、教科の専門性によって違う場合もあるが、様々な思考ルートをたどって建学の精神を実践し、到達した結果が違っていても、それが建学の精神に基づいて行われたものであれば尊重すべきである。金光教の「人を大切に思う気持ち」つまり「人権思想」が建学の精神の根底にはある。言い換えれば、他者を尊重するという普遍性の高い価値観のようなものである。

①「人間平等」の意味するところ

人間は生まれてきて、死んでいく。おおいなるはた

らきに生かされる人間として平等である。目には見えないおおいなる働きは、永遠であり、人間はひと時も離れては生きていけない。私たち人間は一人ひとり等しく肉体とところを分け与えられている。大いなるはたらきは、すべてを存在させているのであり、人間はその存在を分け与えられているのである。

本学が営む3学部、「社会福祉」「看護」「教育」の中心にあるのは人間であり、対象も人間である。金光教祖のみ教えに「人間はみな神のいとし子」とある。これは、みな等しく命や心を与えられて生まれてきた。自分のいのちと同様に他者のいのちも尊重し、一人ひとりのかけがえのない命を大切に、人の痛みや苦しみを自分のことと感じ、人を受け入れる寛容なところ、これらすべてを心に深く宿した、すなわち「福祉のこころ」を持つ人となることを期待している。(引用:『関西福祉大学『建学の精神』の意味するところ』)

筆者は、人間が生まれてくるのには二つの大きな意味があると考えている。ひとつは「命をつなぐということ」「人をはぐくみ育てること」であり、もうひとつは「先人からの知識、精神的文化を次世代に伝承する使命」をもって生まれてきているのである。私という一つの「いのち」の存在と、その「いのち」に託された使命の認識が重要である。人類はこれらを伝承していく一つの鎖のようなものである。本来人間が存在するということは、遺伝子の組み合わせが一人ひとり違うように個性があるということであり、この世に二つとないたった一つの尊い存在として、自分らしさを精一杯実現して命を輝かせていくことが大切である。一人ひとりがこれからキャリアを形成していく中で、たった一つの尊い存在として、命を輝かせていくとはどういうことかについて十分考察することが重要だと考えている。「福祉のこころ」を持つ人となって社会で活躍することが期待されているのである。

また、1948年12月10日の国連総会で採択された「世界人権宣言」⁶⁾の第1条に「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である。人間は理性と良心とをさずけられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」とある。世界共通の普遍的な価値観として「人間平等」がとりあげられていることも忘れてはならない。

②「個性尊重」の意味するところ

同じ親から生まれても、子どもは食べ物好き嫌いも異なり、性格も違い、様々な職業に就く。性格が違うということは、例えば、五本の指がみな同じ長さでそろっていても、物をつかむことができない。長いのも短いがあるので物がかめ、指一本一本に其々違う働きが与えられている。人間も其々性格が違うことで社会の役に立つことができる。大いなる働きのなかで、一人ひとりが自分の心に向き合って、どのように社会に役だてていくのかを見つけ自分を創りあげることによって、それぞれの世界が生まれ、他者から共鳴、共感を得て、人類の幸福の「源」となっていかなければならない。

「社会福祉」「看護」「教育」は、こころ豊かに生きる社会の実現の役に立つものである。一人ひとりが持っている個性や役割の違いを理解しようとする広いこころを持ち、相手の立場に立って傾聴し、共感することが大切である。(引用:「関西福祉大学『建学の精神』の意味するところ」)

③「和と感謝」の意味するところ

朝、目が覚めたこと、息のできること、食事がいただけることなど、私たちは数えきれないすべての事柄に対して「礼を言うこころ」、「感謝の気持ち」を持つことが大切である。

人はひとりでは生きていけない。あらゆる人やものにお世話になりながら生きて行く。そのような関りのなかで、「感謝の気持ち」が生まれるところに「和」も生まれてくる。今存在していることをありがたく思う、すなわち在ることが難しいにもかかわらず存在していることに対して抱く気持ち、これが「感謝」である。人間がいくら頑張っても、大いなる働きにはかなわないものがある。自分の力で何事もやれるという人間中心の考え方ではなく、その大いなる働きに絶えず感謝し畏敬の念をもって生きなければならない。すべての人々が共に生きる世界を実現するには、「和(やわらぎ)」のこころを持ち、命あることに感謝する気持ちを忘れてはならない。(引用:「関西福祉大学『建学の精神』の意味するところ」)

筆者は戦後の物資のない時代に育ってきたので、現在の豊かな生活が夢のようである。ところが、それを当たり前のことのように思えてくるのも事実である。私自身、

時々「この世に生かされていることに対する感謝」が欠けているとハッと気づくことがある。学生であれば尚更かもしれない。常々感謝する気持ちを忘れないようにすることが大事である。

(3) 他大学の建学の精神との比較

キリスト教主義による関西学院大学の“Mastery for Service”⁷⁾、同志社大学の「良心教育」⁸⁾、また、大乘仏教の精神を取り入れている大阪大谷大学の「報恩感謝」⁹⁾がある。法律学校の流れをくむ関西大学は、「正義を権力より護れ」¹⁰⁾を建学の精神とし、学理と実際の調和を説いた「学の実化(じつげ)」を学是としている。早稲田大学は、「学問の独立」つまり「在野精神」「反骨精神」と「模範国民の造就」等¹¹⁾を、慶應義塾大学においては、「独立自尊」「自我作古(われよりいにしえをなす)」等¹²⁾を建学の精神としていることを紹介している。本学の建学の精神と他大学の建学の精神とを比較検討することにより、自校について見つめ直す視点が必要である。

(4) 建学の精神の実践を阻むもの

建学の精神で示されている内容は、人間が生きて行くうえで大切なことであり、これをしっかり理解、実践すれば、人生の諸段階における問題や悩み事は軽減される。しかし、建学の精神を実践するのは、実は大変難しいことと言わざるを得ない。建学の精神の意味するところを理解しても、実際に実践や実現しようとする困難を伴うことが多いが、それは、久保(2010)が述べている、「人間には自我があって、絶えず自分だけが少し良い思いをしたいという我情我欲に捉われる」からであり、「人間は自身が自我に捉われていることに気づかないのである。自由な発想を妨げられ自分に捉われ自由も奪われる、これが不幸の始まりである。しかし、心が自我を離れる時、遮るもののない世界が果てしなく広がる」¹³⁾を参考に、筆者は、我情我欲が建学の精神の実践を阻むということを十分自覚し、極力自我にとらわれないように生きることを日々意識することが大切だと考えている。

(5) SDGs (Sustainable Development Goals) とは

① MDGs (ミレニアム開発目標) から SDGs へ

環境や社会の課題に対して国際社会はSDGsができる前から国連を中心に様々な活動に取り組んでいた。1992年の地球サミット(リオデジャネイロで



- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

図1 SDGsロゴと17の目標
出典： 国連広報センター

開催), そして2000年9月国連ミレニアムサミット(ニューヨークで開催)では、「ミレニアム開発目標」(Millennium Development Goals:MDGs)¹⁴⁾が採択された。パン・ギムン国連事務総長は「私たちは、より良い世界の実現に向け、ミレニアム宣言の約束を果たすよう国際社会に期待する数十億の人々を裏切ってはなりません。約束を守ろうではありませんか」と呼びかけた。

MDGsは極度の貧困と飢餓の撲滅などに限って、2015年までに達成すべき8つの目標をかかげ、一定の成果をあげたが、貧困や飢餓で一部達成できなかった目標があり、それらに継続的に取り組み、さらにより広範な規模の課題(気候変動や格差拡大など)に取り組もうとするのがSDGsである。

② SDGsの目指すところ

SDGsとは、2015年9月の国連で採択された「transforming our world(我々の世界を変革する):持続可能な開発のための2030アジェンダ」¹⁵⁾にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。SDGsは発展途上国のみならず、途上国と先進国を含む全世界が重要な行動計画であることを意識し、経済・社会・環境を調和させ、持続可能で強靱、そして「誰一人置き去りにしない」(“leave no one behind”), 一人ひとりが能力を発揮できる社会を構築していくことを全世界が決意したものである。世界の国も地域も企業も、そして個人も、あらゆる人々が協力して世界の明るい未来のために頑張ろうと国連で決めた、2030年までの17の目標である。

「世界を変えるための17の目標」は、国連広報センターのロゴを引用して下図に示しているが、この17の目標にはそれぞれに紐づく合計169のターゲットが設定されていることが特徴である。

③ SDGsの実現に向けての企業の役割

SDGsの策定のプロセスには、政府、民間企業、研究者、市民など、多くの関係者が議論に参画したこともあり、立場の異なる者同士の間をとりもつ、「共通言語」としての特徴を持ち合わせている。このような特徴から、国際機関や政府主導という側面だけではなく、企業への期待や可能性は大きく、経済活動やイノベーションの創発に期待されている。日本におけるSDGsは、日本経済団体連合会(経団連)がSDGsを柱にする旨を行動憲章に明記するなど、大手企業を中心に認知と活動が進みつつある。SDGsを通じて、新事業の開発、企業価値の向上、ステークホルダーとの関係強化に取り組んでいる(東2018)¹⁶⁾。

以下に、企業でのSDGsの取り組みについていくつか紹介する。

・佐川急便(流通業)

CO2排出量削減、また人口減少や少子高齢化、トラックドライバー不足に対応するために、これまで別々に運んでいた貨物と旅客の「貨客混載」に取り組んでいる。(SDGsの目標8働きがいも経済成長も、目標11住み続けられるまちづくりを、目標13気候変動に具体的な対策を)¹⁷⁾

・ミズノ

「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社

会に貢献する」という経営理念のもと、「CSR・サステナビリティ上の重要課題」を特定し重点的に取り組んでいる。例えば、スポーツの振興という柱では、次世代を担う子ども達の運動能力と体力の向上、スポーツを通じた健康寿命の延伸等の課題に取り組んでいる。（目標3すべての人に健康と福祉を目標4質の高い教育をみんなに）¹⁸⁾

・SMBC 日興証券（金融機関）

地球環境を最大のステークホルダーと認識して環境関連ファイナンスのリード、地域コミュニティ活性化のためのボランティア活動の促進、次世代の担い手となる子どもたちの育成などに取り組んでいる。未来にとって健全な環境は当然の前提であり、コミュニティは潤滑油・セーフティネットの役割を、そして次世代は社会をより良いものにし次の世代に渡す存在と捉えて、サステナビリティを実現することを目指している。（目標4質の高い教育をみんなに目標7エネルギーをみんなにそしてクリーンに目標11住み続けられる街づくりを）¹⁹⁾

・UNIQLO

世界中でUNIQLOを展開するファーストリテイリングは、服のチカラを社会のチカラにというキャッチフレーズのもと、持続可能な方法で服をつくることを目指している。具体的には、働いている人に配慮する、自然環境に配慮する、資源をムダにしないことによって「つくる責任」を果たし、また、難民支援として店舗にリサイクルボックスを設置して服のリサイクル活動（「つかう責任」）も行っている。（目標12つくる責任つかう責任目標13気候変動に具体的な対策を）²⁰⁾

(6) 本学のSDGsの取り組み

本学がSDGsを教学に位置付けたのは2019年度からである。その具体的な取り組みについて紹介する。

①「関西SDGsプラットフォーム」²¹⁾の活動に参画する。

「関西SDGsプラットフォーム」は、SDGsの達成に向けて、関西の民間企業、市民社会・NPO・NGO、大学・研究機関、自治体・政府機関といった、多様な機関が参加するプラットフォームである。幅広い参画機関の多様な経験・知見を相互に結びつけることで、持続可能な社会の構築に向けた新たな取り組みを創出し、イノベーションを起こすことをねらいにして設立されている。本学は、「関西SDGsプラットフォーム」

のSDGsの重要性をアピールし、浸透させていくという目的に則り、活動を行う。そして、このプラットフォームに参加することで多様な分野の人々と出会い、新たなネットワーク・連携関係を構築し、SDGsの達成に資する新しいアイデアや取り組みを生み出す可能性が広がる。

②学生がSDGsの存在を認識し、その内容を学修・検討する。

就職活動の面接等で企業側からSDGsについて問われる機会が増えている。学生自身がSDGsについて理解を深め、一人の社会人として自身の意見や考えを述べることのできる力を身につける必要がある。そこで、「教育基礎演習」等の授業において、SDGsについて学生が調べ、自分にできることを考える機会を持つ。



図2 学内に掲示されたポスターの一部（本学広報部作成）

③既に行っている教育活動等（コミュニティー・アワー活動、地域連携活動等）をSDGsの活動に位置づけ直す。

本学での教育活動、例えばコミュニティー・アワーの活動、地域連携活動、高大連携にかかる地域貢献事業等は、SDGsに貢献していると捉えることができる。これらの活動をSDGsの視点から考察し、SDGsの取り組みの一環として位置づけていく。大切なのは、「普段取り組んでいることが、SDGsにつながっていないか」という問いを持ち続けることである。

④「関西福祉大学におけるSDGsの取り組み」のポスターを掲示する。

学内の各所にポスター「関西福祉大学におけるSDGsの取り組み」を掲示することにより、可視化に

よる浸透を企図し、SDGs についての啓発活動を行っている。(図2)

(7) 建学の精神と SDGs の関係

①「人と関わり、人生を支える専門職者」の育成を目指す。

建学の精神に基づいた真(まこと)の教育は、SDGs の目指す一人ひとりが自身の持てる能力を発揮できる社会の構築に貢献できる人材の育成とつながるものである。本学の、「人と関わり、人生を支える専門職者」の育成において、SDGs という世界共通の目標の達成に向けて在学中に学生が積極的に取り組み、そしてその経験を社会人となった時に生かすことができるようになることを期待している。

②建学の精神の実践と SDGs の目標達成

「誰一人置き去りにしない」という SDGs の精神は、本学の「人間平等」に、一人ひとりが能力を発揮できる社会というのは「個性尊重」に、そして、あらゆる人々が協力して世界の明るい未来のために努力するというの、「和と感謝」に対応していると考えられることができる。SDGs の精神は本学の建学の精神と重なっているのである。従って、SDGs の目標達成のためには、建学の精神に基づいた真(まこと)の教育、高い学術研究、人材育成、地域連携といった大学の教育の充実に加え、学生、教職員、地域など関西福祉大学にかかわるあらゆる人々が協同して取り組むことが不可欠である。

(8) 筆者の SDGs の取り組み

赤穂市国際交流協会の正会員として加入し活動を始めた。学内で「外国人に日本語を教える講座」を開講することが実現し、現在、有志の学生7名が参加して学んでいる。私は、学生がこの講座での体験を生かして外国人との交流を楽しむようになる、ひいてはそれが国際社会や地域社会に貢献できる活動につながると考えている。大学(法人)も赤穂市国際交流協会の正会員となったため、協会の諸行事に学生も無料で参加することができることを付け加えておく。

次に、KPAC(金光教平和活動センター)²²⁾の正会員となり、フィリピン、タイ、カンボジアの教育支援活動に協力している。例えば、フィリピンの子どもの就学前教育、コミュニティーの衛生・安全管理事業、職業

訓練施設の運営、タイの教育里親事業等である。これらの事業は、「一食をささげるチャリティー」への献金や寄付等をもとに行われている。筆者も寄付を通して活動に参加させていただいている。

(9) 講義のまとめ

UNIQLOの「よい服をつくり、よい服を売ることで世界をよい方向へ変えることができる。私たちはそう信じています」という表明にある「信じている」というのは、信念をもって取り組んでいるということだろう。実際、UNIQLOは、世界中でマスクが不足していた時期、新型コロナウイルス対策支援として医療用マスクを3月に1000万枚、5月に500万枚、海外や日本の医療機関に寄贈して「世界をよい方向へと変える」ための行動を起こしている^{23) 24)}。大事なものは、至誠、誠をもって信念を貫くということである。

SDGsの活動を介して、関西福祉大学、赤穂市が国際的に知られる大学や町になるよう啓発していきたいと考えている。これまで建学の精神とSDGsについて様々な角度から検討してきたが、大事なものは内容を理解して日頃の生活の中に実践していくことである。

SDGsは、世界の共通の目標であり、達成に向けて協力していくことが求められている大きなプロジェクトである。今年は新型コロナウイルスの影響を受けて、世界の国々が困難な生活を強いられているが、コロナの問題が終息した後は、新しい組織や生活環境が生まれてくる。特に、SDGsのような国際的な動きを把握し、理解を深めながら、国際性を身につけ一人ひとりの日常生活のなかでSDGsを意識し、持続可能でより良い世界を目指すことを提案したい。そして、本学の学生が国際性のある大人になって社会で活躍することを望む。

(10) 学生のリフレクション(レポート課題より)

上記の講義動画を視聴した後、「この講義を受けてあなたが学んだことを3点整理してまとめなさい」及び「あなたの考えるSDGsの取り組み、また現在自分がしている様々な活動の中にSDGsの取り組みにつながるものについて書きなさい」というリフレクション課題を課した。以下に学生のリフレクションを紹介(抜粋)する。

<p>○「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」を掲げ、そういう考えのもと、私たちも学んでいることが分かった。社会福祉、看護、教育の中心にあるものが人間であり、人間を対象とした「福祉のこころ」を育ていけるように学んでいきたい。</p>
<p>○人間平等という言葉は何度も聞いたことがあったけれど、ちゃんとした意味を理解したのは初めてだった。「福祉のこころ」を持つと言うことが軸となっていると分かり、「人間平等」についてすごく身近に感じた。</p>
<p>○改めて関西福祉大学の建学の精神を目にした。この三つのことは何となく頭の中にあっただが、詳しい意味は一回生の最初のオリエンテーションの時以来だったので動画を視聴し、課題をしながら考えさせられた。私たちはこの普段の生活が、当たり前だと思って生活をしているが、その当たり前前前の生活がどれだけ幸せなことかということ、そして私は決して一人では生きていけないこと、周りの人が私たちを支えてくれるから変わらず普段の生活ができることを忘れないように日々感謝し、生きていくことが大切だということを改めて再確認することができたので良かった。</p>
<p>○今回しっかりと本学の建学の精神を学ぶことによって、自分が今後どのような気持ちや考え方で学んでいかなければならないのかを考えることができた。入学してから一年が経つが、このようなことを考えずに過ごしていたと思う。SDGsの活動について、これまで取り組んでこなかったが、今回の講義を受けて、自分がどの立場で何をすることが大事なのかを学ぶことができた。例えば、自分から積極的に地域の活動に参加する、困っている人がいれば積極的に手伝う等、小さなことでいいから自分なりに考えて行動していこうと考えている。</p>
<p>○現在、関西福祉大学で学んでいることがSDGsの取り組みにつながるものではないかと考える。SDGsの取り組みの中に「質の高い教育をみんなに」という目標がある。私は大学で教育について学んでいるが、その取り組みにつながるものだと感じた。質の高い教育ができるように一から専門的な知識をしっかりと自分に取り入れ、そして自分が生徒に質の高い教育を届けるために勉強を欠かしてはならないと感じた。 また、この教育という分野は、様々な可能性を生み出す力があるように思う。教育を通じて、貧困をなくすため、そして自分の夢を実現するための仕事に就きたい生徒をしっかりと導いてあげることが出来る。こういう様々な可能性のある教育にしっかりと携わっていきたい。</p>
<p>○私は「和と感謝の意味するところ」につながることを意識して生活している。「朝、目が覚めたこと、息のできること、食事がいただけることなど、私たちは、数え切れないすべての事柄に対して礼を言うところ、感謝の気持ちを持つことが大切である。」ということが書かれている。私は、食事をとれることにとても感謝している。お肉や魚というものは他の動物を犠牲にして自分のエネルギーにしているのもその感謝を忘れず残さず食べようと思っている。他にも自分がこうして何不自由なく動けるよう産んでくれた母に感謝している。そして、大学まで通わせてくれた両親にも感謝している。一人では生きていけないので周りへの感謝を忘れず生活していきたいと思っている。</p>
<p>○SDGsは世界共通の目標であり世界中のみんなが取り組む活動になっているため、誰かがおろそかにしたりしたら一向に持続可能な社会は作れないと思う。また、「誰一人取り残さない」と書いてあるのは「全員が取り組むようお互いが言い合う」ように感じた。自分だけでは作ることができないということはみんな協力して未来を創っていく取り組みだと改めて学んだ。 また、関西福祉大学は赤穂の地域の協力があつたから生まれた大学であることを知った。そのため、「地域を活性化するため」「今の状況だからできること」をやっているかといけないう。深夜に大学生が集まって大声で話すことや、ポイ捨てなど地域に迷惑をかけるのではなく「関西福祉大学の学生」という自覚をもって行動すべきだと学んだ。</p>

<p>○関西福祉大学の理念が「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」であることを忘れず、地球環境の持続可能な社会を作っていく必要があることを学んだ。この建学の精神は、関西福祉大学生みんなが心に掲げ、教育や研究を行っていかねばならないと思う。赤穂市との協力、教職員の協力、そして学生との協力が必要であり、この協力をしていくことで少しでも地域活性化に繋がると思う。そして地球環境と人類社会の持続可能に繋がっていくのではないかと考え、自分たちは考えて行動していかないといけないと学んだ。 「人間平等」は、自分の命、他者の命を尊重し、一人ひとりのかけがえない命を大切に、人の痛みや苦しみを自分のことと感じて人を受け入れる寛容な心、「福祉のこころ」を持つことが大事であると学んだ。関西福祉大学は、福祉大学ではあるが、看護や教育など福祉と違った領域の学部がある。どの学部においても、人を助ける、つまり福祉的な役割を担っている。福祉と関係のない仕事に就くからと言って、「福祉のこころ」を持たないようにするのではなく、福祉大学に所属している私たちは皆、必要最低限持って将来につなげていかなければならないと考えた。</p>
--

3 考察

「人とかわかり、人生を変える専門職者」になるために今私は学んでいるのだと感じた」「しっかりと本学の建学の精神を学ぶことによって、自分が今後どのような考え方で学んでいかなければならないのかを考えることができた」「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」という建学の精神のもと、私たちが学んでいることが分かった」等の学生の記述から、「自分の居場所がわかる安堵感」(寺崎,2017)を感じていることがわかる。寺崎(2017)は、「この大学はほかとはどこが違うか。どこが特色かということを教えれば、学生は非常に安心する。この大学はどうやってできて、どういう特質があるか、差異でなくていい。特質があるかということを引きちんと教えれば、非常に安心する」という。そして「学生が感じるのは満足感ではなくて安堵感」であり、「自分の居場所がわかる安堵感」である。そして、それが「自分がわかることの第一歩」になると述べている²⁵⁾。学生にとって、自分が何者であるかわかるということは、自分がなぜこの大学に入学したのか、大学に入学して何をしようとしているのかという自分自身の生きている文脈を自覚することにつながる。そして将来を見据えて学びを深めていく。前節にあげた学生のリフレクションにその一端をみることができる。「関西福祉大学の理念が「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」であることを忘れず、地球環境の持続可能な社会を作っていく必要があることを学んだ。建学の精神は、関西福祉大学生みんなが心に掲げ、教育や研究を行っていかねばならないと思う。
(中略) 関西福祉大学は、福祉大学ではあるが、看護や教育など福祉と違った領域の学部がある。どの学部においても、人を助ける、つまり福祉的な役割を担っている。

福祉と関係のない仕事に就くからと言って、「福祉のこころ」を持たないようにするのではなく、福祉大学に所属している私たちは皆必要最低限持って将来につなげていかなければならないと考えた」と述べている。学生の表現は未熟であるが、湯川理事長の祝辞にあった「(建学の精神とは) 多種多様な価値観を認め、尊重しつつ、しかしそのバラバラになりそうなものを束ねて、ふわりと覆ってくれる大きな傘のようなもの」を感じ取り、これから自分が生きていく上での指針にしようとしている。

本講義に先立って実施したSDGsに関する事前学習は、SDGsの活動を知って関心を持つこと、今の自分にできることはないかと「自分事として考える」視点を養うことの2点をねらいとして実施した。その際の参考資料として紹介した吉本興行(第1回「ジャパンSDGsアワード」特別賞(SDGsパートナー賞))を受賞制作の動画『空飛ぶレジ袋』²⁶⁾は、レジ袋の有料化(2020年7月1日開始)の時期と重なったこともあって、自分事として考えるきっかけとなったようである。例えば、「SDGsについて調べる前の私は、コンビニでのレジ袋の有料化について不便だと否定的に感じていたが、コンビニのレジ袋の使用を少しでも少なくすることによって地球の環境や海の生態系が維持されるのならレジ袋の有料化はやるべきだと考えが変わった」「レジ袋のことだけではなく、小さなことから少しずつSDGsに関心を持つことが重要で、未来のために自分たちのできることに取り組んでいきたいと思った」「周りの知らない人にもこの動画のことや知ったことを教えて、私にできることに取り組んでいきたい」「知らないことを知ることによって世界を変えていける」等の記述があり、SDGsについて知識を得ることが、久保(2010)¹³⁾の言う「我情我欲、自我に捉われていることに気づく」ための小さな一歩となったことがうかがえた。

そして、学生の意識の変化等を読み取ることでできる記述として、「(副学長の講義で)改めて関西福祉大学の建学の精神を目にした。この三つのことは何となく頭の中にあっただが、詳しい意味は一回生の最初のオリエンテーションの時以来だったので動画を視聴し、課題をしながら考えさせられた。私たちはこの普段の生活が、当たり前だと思って生活をしているが、その当たり前の生活がどれだけ幸せなことか(中略)、周りの人が私たちを支えてくれているから変わらず普段の生活ができることを忘れないように日々感謝し、生きていくことが大切だ

ということを改めて再確認することができたので良かった」とあり、建学の精神について学んだことによって、大切にしたいと思う生き方を自身の中に染み込ませていく機会となったようである。また、『空飛ぶレジ袋』の動画に言及していた先の学生は、「妹と話した時、SDGsのことを知らなかった。世界中の人々がSDGsの取り組みを推進していこうとしている。自分にできる小さなことから生活の中で実践することが大切だと副学長も講義の中で話されていたが、SDGsを知らない若者にSNSを通じて発信していくことができるのではないかと考えた。世界中の人々の意識を変えることが、環境を守り平和な生活を送ることにつながるのだということをもっと伝えていくことが私たちのやるべきことだ」と日常生活の中で実践する意欲を高めている。そして、事前学習では「普段当たり前前にレジ袋を使っているが、それが海の生態系を脅かしているとは思ってもいなかった。もっと環境のことを考えて生活をしなければならない」と考えていた学生は、「個人がポイ捨てをやめたり、リサイクルするなどの取り組みでも、それを全員が行えば、大規模な取り組みとなる。自分自身の生活を見直すというのは小さな取り組みではあるが、将来の世界のために取り組んでいきたい」と環境を守るために、自分自身の生活を見直し他者と協力して世界を変えていこうとしている。

本稿の冒頭で述べたように、自校の建学の精神について学ぶことは、人間としての成長に焦点を当てる教育の一つの在り方であると考えられる。本学の建学の精神に基づいた教育は、SDGsの目指す一人ひとりが自身の持てる能力を発揮できる社会の構築に貢献できる人材の育成につながるものである。社会福祉、看護、教育の3学部において、「人と関わり、人生を支える専門職者」を育成する上で、建学の精神とSDGsについて学ぶことは重要な役割を果たす。次に学生のリフレクションを紹介する。

- ・世界規模でSDGsの持続可能な社会のための目標を達成しようとしている。企業だけではなく、私たちのような大学に所属する学生でもできることがあるのではないかと考える。関西福祉大学生として、関西福祉大学の目標を少しでも達成できるようにしなければならないと考えた。
- ・現在、本学で学んでいることがSDGsの取り組みにつながるものではないかと考える。SDGsの取り組みの中に「質の高い教育をみんなに」という目標がある。私は大学で教育について学んでいるが、その取り組み

につながるものだと感じた。質の高い教育ができるように一から専門的な知識をしっかりと自分に取り入れ、そして自分が生徒に質の高い教育を届けるために勉強を欠かしてはならないと考えた。

これらは、意識レベル、観念レベルのものであるが、このように記述する学生が、いつか本学の建学の精神を体现できるような人間に成長していつてくれることを強く期待している。SDGs という世界共通の目標について学び、「自分にできることは何か」を建学の精神を基に考え実践しようとすることは、大学在学中はもとより社会人となって生きて行く上で貴重な経験となるだろう。恐らく、それはこれからの変化の激しい社会を生きていく際に、「人生の指針」のような働きをしてくれるのではないだろうか。

4 おわりに

寺崎 (2015) は、建学の精神のエッセンスは不変であっても、常に「現代への翻訳」が必要なものであり、それゆえ捉え直しの視点が求められるのだと述べている²⁷⁾。本稿では、本学の建学の精神を学ぶとともに、建学の精神を SDGs の観点から見直し、現代社会を生きていく学生の指針とすべく検討した。学生は、建学の精神を SDGs という現代社会の課題と重ね合わせることで、これからの社会を生きていく上での指針を得て、持続可能な社会のために、人の役に立つ人間になろうとする思いを強くしている。

このことから、建学の精神について学ぶという自校教育を、SDGs 等の様々な視点や角度から検討することが、人間としての成長に焦点を当てる教育の在り方を考える上で重要だと考える。

引用文献

- 1) 文部科学省, 帝国大学令 (明治十九年三月二日勅令第三号) https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1318050.htm. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 2) 天野 郁夫, 「大学の誕生 (下)」, p205 中公新書, 2010.
- 3) 天野 郁夫, 「大学の誕生 (上)」, p83 中公新書, 2009.
- 4) 木村 正則, 「私立大学における「建学の精神」の役割」, p71 近畿大学全学共通教育機構教養・外国語教育センター紀要, 2017.
- 5) 湯川彌壽善, 「建学のこころ」, p6, 関西福祉大学創立 20 年史, 関西福祉大学, 2018.
- 6) 国際連合, 世界人権宣言, 1948.
- 7) 関西学院大学, スクールモットー, https://www.kwansei.ac.jp/kikaku/kikaku_003685.html. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 8) 同志社大学, 良心教育と教育理念, https://www.doshisha.ac.jp/information/history/educational_ideal.html. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 9) 大阪大谷大学, 建学の精神, <https://www.osaka-ohitani.ac.jp/about/spiritual.html>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 10) 関西大学広報委員会, 関西大学通信 特別号_10/ 9/ 2008. <https://www.kansai-u.ac.jp/ja/assets/pdf/about/pr/tsushin/special.pdf>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 11) 早稲田大学, 早稲田大学教旨, <https://www.waseda.jp/top/about/work/mission>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 12) 慶應義塾大学, 理念, <https://www.keio.ac.jp/ja/about/philosophy/>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 13) 久保 博孝, 「心が自我を離れる時」, p 140 東京図書出版, 2010.
- 14) 国連開発計画, ミレニアム開発目標, http://www.undp.or.jp/publications/pdf/millennium2012_11.pdf. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 15) 国際連合広報センター, 2030 アジェンダ, https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 16) 東英弥, 「持続可能な社会の実現に向けて 変わる企業の役割と可能性」, p2 学校法人先端教育機構 事業構想大学院大学出版部, 2018.
- 17) 佐川急便, 持続可能な開発目標 (SDGs) への取り組み, <https://www.sagawa-exp.co.jp/csr/SDGs/>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 18) ミズノ, SDGs の取り組み, <https://corp.mizuno.com/jp/about/sdgs.aspx>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 19) SMBC 日興証券, 当社におけるサステナビリティ, <https://www.smbcnikko.co.jp/csr/policy/conception/index.html>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 20) UNIQLO, UNIQLO Sustainability, <https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/community/>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 21) 関西 SDGs プラットフォーム, 関西 SDGs プラットフォーム, <https://kansai-sdgs-platform.jp/>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 22) 金光教平和活動センター, 金光教平和活動センター, <http://www.konkokyo.or.jp/kpac/>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 23) FAST RETAILING, 「新型コロナウイルス感染症対策支援として医療用マスク 1000 万枚を日本および海外の医療機関

- 等へ寄贈」, <https://www.fastretailing.com/jp/sustainability/news/2003262000.html>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 24) FAST RETAILING, 「全国の医療機関等にガウン・マスク計500万点と機能性肌着を無償提供」, <https://www.fastretailing.com/jp/sustainability/news/2005250900.html>. [最終閲覧日: 2020年11月27日].
- 25) 寺崎 昌男, 講演録 明星教育センター自校教育講座「自校史研修と自校教育の実践について」:なぜ今, 自校教育が必要か, p26-27 明星大学明星教育センター, 2017.
- 26) 吉本興業, 吉本興業のSDGsへの取り組み - SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS ~世界を変えるための17の目標~, <https://www.yoshimoto.co.jp/sdgs/>. [最終閲覧日: 29 11 2020].
- 27) 寺崎 昌男, 「教養教育における「建学の精神」の可能性 - 私立大学ならではの教育の実践 -」 p153, 國學院大學教育開発推進機構紀要第7号, 2015